

パネルディスカッション
「流域の暮らしと文化、そしてこれから」

(進行役) 嘉田 由紀子 びわこ成蹊スポーツ大学 学長
琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会 顧問

進行役 & パネリストの紹介

(進行役)



嘉田由紀子さん

びわこ成蹊スポーツ大学 学長、前滋賀県知事
琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会 顧問（関西広域連合）

1973 年京都大学農学部を卒業、1975 年米ウイソコンシン大学修士課程修了、1981 年京都大学大学院農学研究科博士課程を修了し、京都大学より農学博士（論文名『琵琶湖の水問題をめぐる生活環境史的研究』）を授与される。滋賀県立琵琶湖博物館総括学芸員、京都精華大学人文学部教授を歴任し、2006 年 7 月 2 日の滋賀県知事選に当選して全国で 5 人目の女性知事となる。琵琶湖環境政策、子育て・女性参画、地域雇用・活性化、流域治水・卒原発政策などで新機軸を開き 2014 年 7 月、知事を勇退。現在、びわこ成蹊スポーツ大学の学長。『いのちにこだわる政治をしよう！』（2013 年、風媒社）、『知事は何ができるのかー「日本病」の治療は地域からー』（2012 年、風媒社）、『生活環境主義でいこう！——琵琶湖に恋した知事』（2008 年、岩波ジュニア文庫）など著書多数。

(パネリスト)



秋葉芳江（中川芳江）さん

Office SPES 代表
京都市ソーシャルイノベーション研究所 イノベーション・キュレーター

総合電機メーカーでビジネスコンサルタント等を経て、1998 年株式会社ネイチャースケープを起業、自然環境保全のプロセスデザインを事業化。自身も社会的企業家として歩む傍ら、ソーシャルビジネスの立ち上げ支援に関わる。地域計画・まちづくり計画や、行政・企業・市民・NPO 等の連携事業創出、社会的ビジネス創出を多数手掛ける。河川との関わりでは 2004 年～2011 年兵庫県武庫川流域委員会委員を務め、武庫川水系の河川整備基本方針、整備計画の策定に深く関わる。2013 年より Office SPES 代表。京都市ソーシャルイノベーション研究所イノベーション・キュレーター。一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク理事。滋賀県淡海ネットワークセンター市民事業アドバイザー、滋賀県おうみ未来塾講師。総合政策修士（関西学院大学大学院総合政策研究科）、防災士、ひょうご防災リーダー。兵庫県環境審議会委員（2002～2006 年）、公益財団法人ひょうご産業活性化センター登録専門家（2002～2010 年）。関西学院大学非常勤講師（地域政策、2008～2009 年）、立命館大学非常勤講師（ソーシャルビジネス、2011～2012 年）。『水をめぐるガバナンス』（2008 年、東信堂（分担執筆））、『ソーシャル・アントレプレナーシップ—思いが社会を変える』（2007 年、NTT 出版（分担執筆））など。

(パネリスト)



戸田 香 さん

神戸大学大学院法学研究科（政治学） 博士後期課程在籍
大阪市立大学大学院創造都市研究科（都市政策） 修了 修士
朝日放送株式会社 総合ビジネス局コンテンツ事業部 次長

現在は放送局勤務の傍ら、地方政府の政治過程を研究している。博士論文のテーマは「政策終了」で、研究対象は都道府県のダム事業の終了。治水政策や震災復興、中山間地域の活性化、「道の駅」についての著書あり。



横山 あおい さん

有限会社エイライン代表、NPO 法人人と自然とまちづくりと理事長
琵琶湖・淀川流域圏連携交流会理事，大阪・淀川市民マラソン事務局長

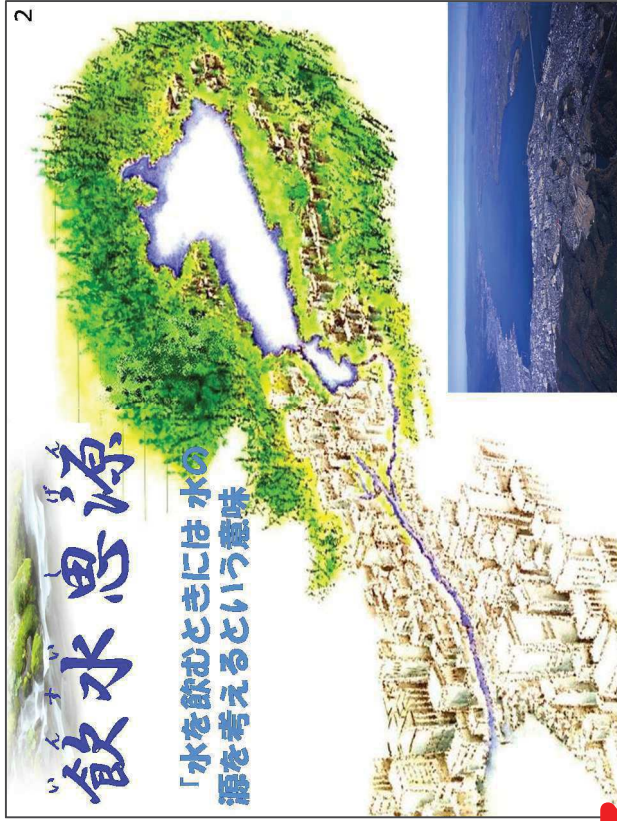
技術士（総合監理、都市及び地方計画、道路），建築士。地域づくり、まちづくりを通じて「人と自然とまちづくりと」の“と”を実践中。<“と”とは、調整役やプロデュース…> 特に、「心と体が元気で、いつも楽しく」をモットーに、美しい景観と美味しく体に良いものを手軽に食べたい。を研究中。



山口 美知子 さん

東近江市市民環境部森と水政策課 課長補佐
滋賀地方自治研究センター 理事

1972年滋賀県生まれ。1998年に林業技師として滋賀県入庁。琵琶湖環境部林務緑政課、大津林業事務所、琵琶湖環境政策室、東近江地域振興局森林整備課（現、中部森林整備事務所）を経て、2010年から東近江市派遣となり、企画部緑の分権改革課に配属。2012年3月滋賀県を退職し、東近江市職員となる。仕事以外では、滋賀地方自治研究センターびわ湖プロジェクト、kikito、NPO 法人カーボンシンク、NPO 法人まちづくりネット東近江等の活動に参加。



4

古代湖・進化の展示会場・琵琶湖と生物多様性

400万年の歴史を持つ古代湖 琵琶湖

多数の固有種を含む豊かな魚類生態系

固有種
琵琶湖博物館
琵琶湖&川の魚

約400万年前
本琵琶湖
Paleo-lake Biwa
about four million years ago

約100万年前
about one million years ago

約30-40万年前
about three hundred thousand years ago to four hundred thousand years ago

3

琵琶湖は近畿1,450万人の命の水源
(単なる水ガメではない!)

琵琶湖流域は、淀川流域の約47%

流域面積	割合
淀川全体	100.0%
琵琶湖	46.7%

府県名	琵琶湖からの給水人口(H15)
滋賀県	1,102,737人
京都府	1,814,201人
大阪府	8,772,470人
兵庫県	2,667,211人
合計	14,356,619人

5

固有種は人びとの食卓に！

縄文・弥生時代以来の伝統漁法に根差した水と食文化（日本遺産に）

琵琶湖とその水辺景観―折りと暮らした水産産

琵琶湖の刺身
ヒマスの刺身
ホニエの炭火焼き
イサガのじゅんじゅん
イサザ
イサガ
イサガ(ウ・ドリ)
スズキ
エビ
エビ豆
エビ魚
オイサガ魚
コアユ

7

琵琶湖の水辺の今昔： 水路が消えて道路とバルブ灌漑に （琵琶湖総合開発の成果と課題）

昭和30年頃

平成9年

写真提供：琵琶湖博物館
写真撮影：藤村和夫

6

人と湖のかかわりの再生「近い水」

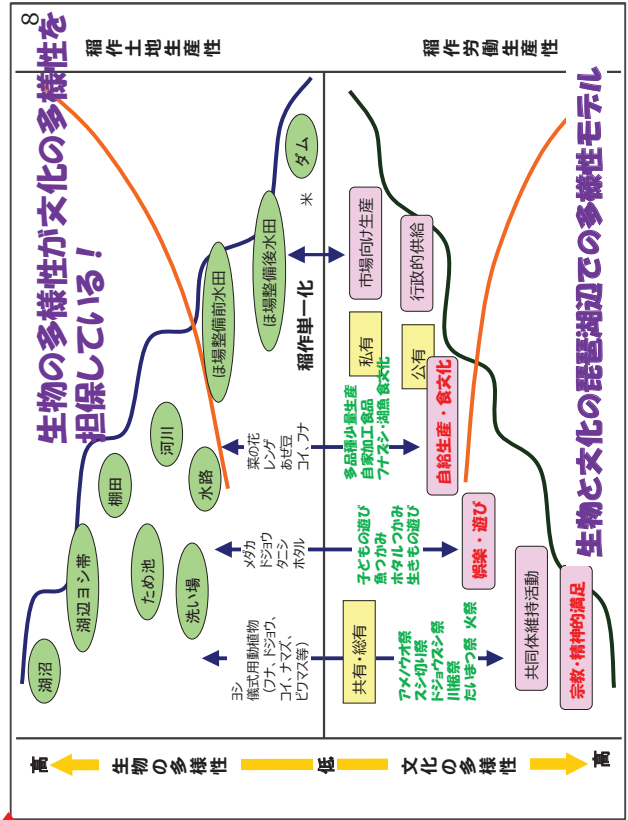
湖はよこれなかつた？
→湖岸の生活と生態システムの循環

ナベ
ごはんつぶ
小魚(ジヤヨ)

食事
人のくらし

隣近所での共有さんばし
・よごさない不文律
・オムツ洗いは禁止
・利用の約束事

昭和30年代の琵琶湖岸
写真：前野隆資、提供：琵琶湖博物館



10

自然環境の質を論じるときには一般的に「希少種がいる」、「固有種がいる」といわれる科学的示一タが用いられる

科学的思考

12

科学的思考 + 文化的思考

環境問題の多面性が見えてくる

9

環境と人間社会の関係性を考える
ときには…

「科学的思考」(三人称)
と
「文化的思考」(一人称、二人称)

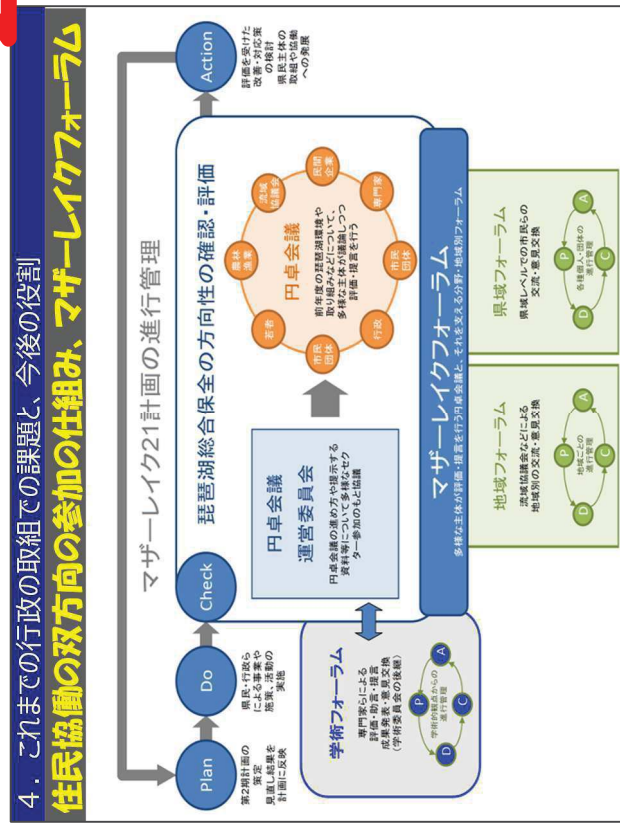
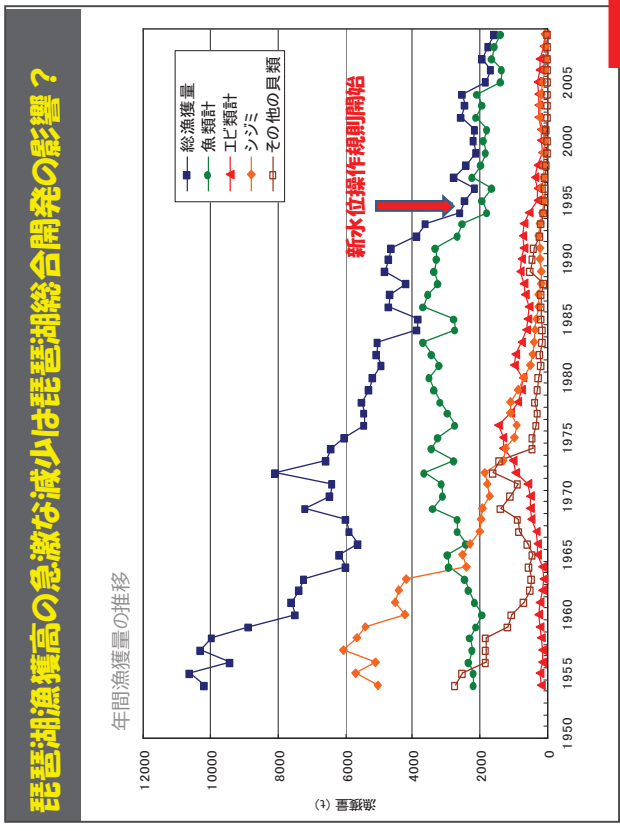
という複眼の思考が必要

11

示一タでは表せない価値がある

- (1) 川や森とかかわり続けるくらしの安心
- (2) 近い水、近い木々への関心が生む歌や絵画
- (3) 水辺や里山の風景の価値は無限
- (4) 歴史性と文化性、心地よい風景とは？
- (5) ココロは「遊びと食と美」のふれあい価値

文化的思考



魚のゆりかご水田プロジェクト

20

湖魚が産卵・成育できる水田環境を取り戻そう！
農家、地域、経団連、そして何より生きものにとって大切な「魚のゆりかご水田」
人や生きもの安心して暮らせる田んぼの環境を取り戻すプロジェクトです。

水田を、魚の産卵・成育の場として再生する方法

プロジェクトの効果

水田を、魚の産卵・成育の場として再生する方法

プロジェクトの効果

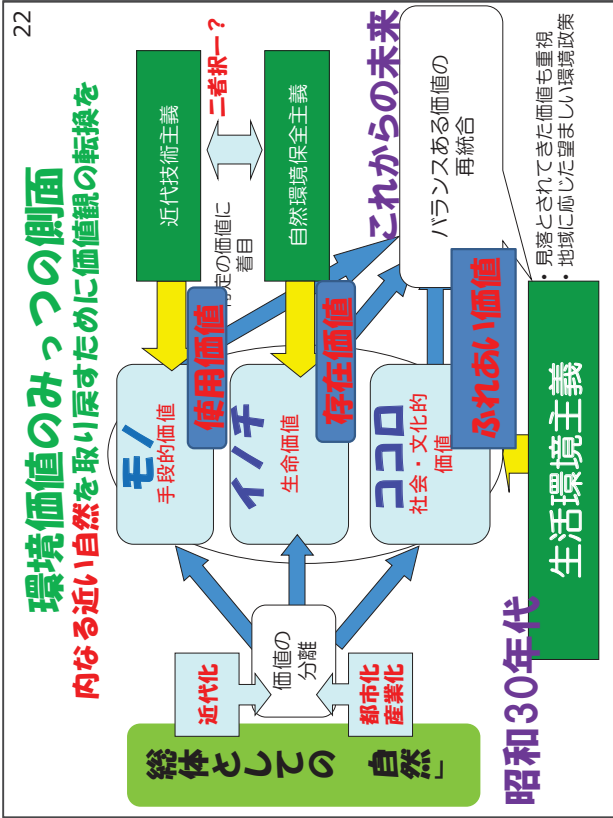
水田を、魚の産卵・成育の場として再生する方法

プロジェクトの効果

21

生態系再生は農地化した内湖を元に戻す挑戦を！
(早崎内湖の再生)

例
湖沼地帯
かつての内湖



23

琵琶湖とその水辺景観
～祈いと暮らしの水遺産～
天台薬師の池＝琵琶湖
比叡山の守り神＝日吉山王、神仏習合
湖中出現の薬師如来

山王神輿の湖上渡御・薬津の御供

24

水と暮らしの文化(近い水が生きる暮らし)

海津・西浜・知内の水辺景観
針江・霜降の水辺景観
大溝の水辺景観
伊庭の水辺景観
東草野の山村景観
近江八幡の水郷

滋賀を代表する文化資産「重要文化的景観」

琵琶湖とその水辺景観一祈いと暮らしの水遺産

26

「天台薬師の池」琵琶湖

命はくくみ、命を守る、未来世代へ
 「ハードウェア（モノ）」
 「ソフトウェア（コト）」
 「ハートウェア（ココロ）」

女性の感性と経験を活かした発信により
 バランスある生態文化社会づくりを！

28

盆地文化連合の関西 大平野の関東

(つぶあん関西 vs ごしあん関東) (水系文化の自然基盤)

出典) 国土地理院 免別標高図 (浄域図は海上保安庁海洋情報部の資料を使用して作成) および 国土数値情報の 河川・湖沼・行政界データから作成。

25

琵琶湖水は直接飲めるよ！

アフリカ風の暮らしを琵琶湖辺で！

多くの場所で太陽浴は検出せず
 水道水より美味しい水
 びざ飲みなれと思う？
 そのイメージこそ問題

2015年5月30日、10月12日
 大津市 栗田家前の北比叡湖畔にて

27

水にまつわる国指定文化財は滋賀と奈良が拠点に！

(「薬師如来」「観音菩薩」に関連するもの)

出典) 文化庁 国指定文化財データベース (http://kumishitei.bunka.go.jp/bsys/index_pc.html)、データベースから「薬師如来」及び「観音」のキーワードで抽出した件数をグラフ化し、たばし、地域分布の傾向を得るため、郡単位・市町村単位に反映されているのは除く。

29

ディスカッションのテーマは流域に暮らす生活者目線で、楽しい・住み心地の良い・町づくりの視点から

気候変動、人口減少の時代において、災害が増える、不確定なリスクが増える、社会の活力が弱くなる、それでも元気で希望のもてる地域づくり、町づくりとは？

私たちが暮らす場としての水と共生する流域の恵みを絶やさず、災いをやい過ぎし、未来にむけての暮らしを守り、心豊かな文化の種を埋め公むための、今、私たちが何をしなければいけないのか？

住民として、地域アクターとして、行政マンとして、またマスコミコミュニティとして、多様な立場を活かした提案と議論を期待したい。

30

討論の提案テーマ

流域の暮らしと文化をこれからどう守り、育んでいくのか？
行政（関西広域連合も含む）がどのように貢献できるのか？

(研究会からのキーワード)

- ①統合的な流域管理
- ②流域治水・総合治水
- ③流域の共通認識・相互理解
- ④流域生態系サービス
- ⑤森里川海のつながり
- ⑥地域資源
- ⑦小さな自然再生
- ⑧地域の個性・多様性
- ⑨流域総参加
- ⑩民主的ガバナンス